

青年部

第1・2回「環境教育プログラム」実施報告

平成26年青年部全体会議のテーマは「環境教育プログラムの作成」でした。昨年専門分野の先生方の研修セミナーにて検討を重ね、実践プログラムを構築しました。その成果発表を、第1回/2月16日(月)青年部参加者3名、第2回/7月22日(水)青年部参加者7名、両日13:00~14:30、豊橋技術科学大学において、「産業廃棄物業界に関する大学生向け教育プログラム」を大学の標準講義の内容として、准教授 後藤尚弘先生の多大なご協力のもと実施することができました。

本プログラムの目的として、これからの将来を担う大学生の産業廃棄物業界に対する「理解」を促進し、「将来」の円滑なビジネス運営、業界の地位向上に資するプログラムの作成が主旨となっております。また教育プログラムの基本として、環境教育の目標は被教育者が責任ある環境配慮行動を実践することであり、そこに至るまでに、様々な目標段階を設定すべきであるとされている。これを踏まえプログラム構築に当たり、1975年のベオグレード憲章の6つの環境教育の目標段階の「関心→知識→態度→技能→評価→参加」を参考にしました。

- 関心：環境に親しみ、環境を保全することに価値を見出す
- 知識：環境に関する知識を獲得する 例 理科における植物の生長、社会科におけるまちの暮らしを支える人々等
- 態度：環境を保全しようと思うこと
- 技能：環境を保全する方法を学ぶこと
- 評価：環境を保全することの効果进行评估する
- 参加：環境保全活動を実践すること

事前準備として、学生に対してアンケートを行い業界への関心を喚起し、産業廃棄物業界を考えさせ

るきっかけとする。講義後に再度同じアンケートを行い、意識の変化を見ました。

当日の流れは、全体ファシリテーター（中立的な立場で会全体の進行を支援する人）により、①プログラム概要の説明 ②講義 ③ディスカッション ④振り返り・アンケート入力 と進められました。

講義ではスライドで発表された「その時、廃棄物処理業者は何をしたか？ 3.11東日本大震災」では、震災直後の災害廃棄物発生現場の生の対応について、克明に報告されていました。その3年後にがれき処分を終了し、8割がリサイクルされたという産廃業者のすさまじい努力に奥山市長から感謝状が贈られました。そして東海地震の時、君はどうする・・・と問いかけ、日頃の備えからBCPの整備が企業にとって急務であり、廃棄物処理には欠かせないということから、産業廃棄物業界に着目させました。そして、製造業になくはならない、ものづくりは廃棄物処理とセット、であることに気づかせます。また産廃業界って?では、

- ①どんな業種でも顧客になりうる
- ②新しい廃棄物の発生
- ③同じ廃棄物であっても質が変化する
- ④最先端の技術
- ⑤地域への貢献
- ⑥海外への展開

と、産廃業界の今後における仕事の広がりをも示さ



れました。スライドの最後に現在産廃業界に就業されている方の一日の流れを2パターン紹介し、より現実的に伝えられました。

講義終了後に各テーブルに分かれ、部分ファシリテーター（中立的な立場で担当テーブルの進行を支援する人）の進行のもと、青年部の方とのディスカッションに入りました。ディスカッションでは初めて産廃業者の方と対話する学生が多く、緊張した面持ちの中事前に用意した質問を青年部の方に投げかけられました。青年部の方からは、行政の許可が必要な業務なので信用を失うような行いは許可の取消につながる信用第一の仕事だという説明を受け、業界を見直した学生が多かったようです。

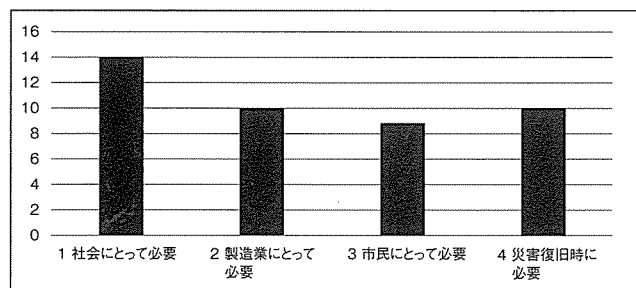
—後藤先生の感想—

今回の大学生向け教育プログラムで最も重視したことは、大学生に産廃業者の方の生の声を届けることでした。大学生になると善悪の判断もつき、それに基づいて行動しようとしています。しかしながら間違った情報、思い込みに基づいて行動することもあります。そうならないためにも現場の声を聴くことは大切なことです。

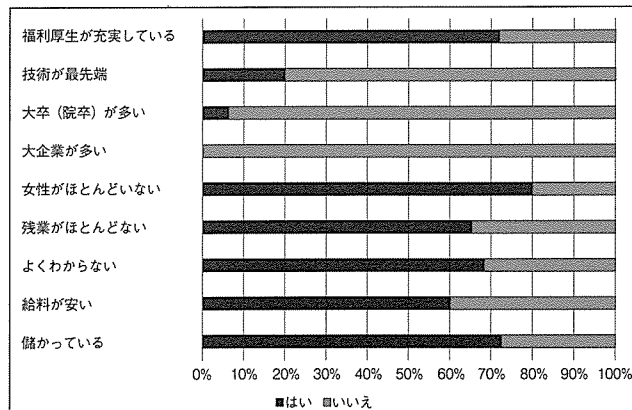
これまでに2回ほどプログラムを実施しましたが、現場での実情や業界の現状など大学生にとって初めて聞く話が多かったと思います。彼らが将来社会人として仕事をしていく中で、産廃業界とは必ず関わります。その時に彼らが循環型社会を形成する一員として自覚をもって産廃業界とお付き合いしてくれることを期待しています。

■アンケート結果(講義後実施)

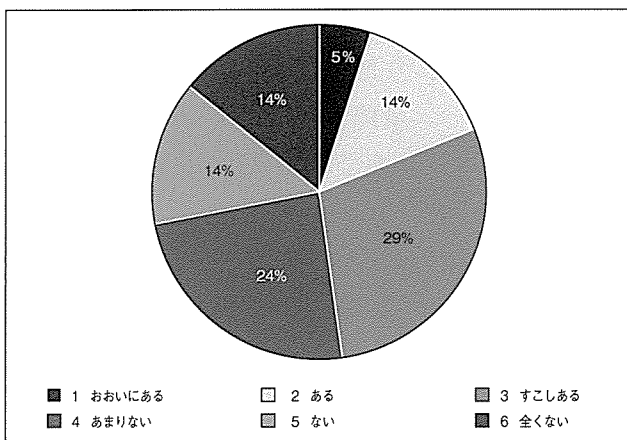
廃棄物処理業に関する「社会における印象」をお教えてください。



廃棄物処理業に関する印象をお教えてください。



廃棄物処理業への就職に興味はありますか。



業界についてもっと知りたいことはありますか？

- ・大学の環境系の研究室のように廃棄物の処理に関する研究などは、廃棄物処理企業でも行っていますか？
- ・福利厚生についてもっと知りたい
- ・最先端の処理技術はどのようなものがあるか？
- ・廃棄物処理業の事業の一連の流れ
- ・廃棄物処理のコストを抑える工夫
- ・ゴミの流れとそのシステムについて
- ・分別したごみの処理方法とリサイクルの仕方や応用について
- ・大型車・特殊車両の免許が必要かどうか
- ・今後のビジネス戦略に関すること
- ・一番つらいと感じるとき
- ・仕事のやりがいや充実感を知りたいです。
- ・製造業と関わっているということは理解できました。しかし、どのようにかかわっているかがわからなかったです。製造工程で出る廃棄物をすべて廃棄物処理業者がすべて処理しているのか、など